

FoE Japan green earth

フレンズ・オブ・ジ・アース・ジャパン

NEWSLETTER vol.92 autumn 2024 | www.foejapan.org

気候危機の最前線で
たたかうアジアの人々の声



CONTENTS

- 02-03 特集 気候変動
気候危機の最前線でたたかうアジアの人々の声
- 04-05 ACTION REPORT
全国で約8,000人が参加！気候アクションウィーク2024
みんなの笑顔！『福島ぼかぼかプロジェクト』
FITバイオマス発電事業者にアンケート実施
アジアの市民団体が要請 日本は『誤った気候変動対策』を広めるAZECを止めて
- 06 I am a friend of the earth Vol.1
information 祝 LINE公式アカウント1周年！



気候危機の最前線で たたかうアジアの人々の声

気候危機の影響が世界中で深刻化しています。世界気象機関(WMO)は2023年が記録上最も暑い年であったと発表しています。また、NASAによると、今年の8月に新たな月別最高気温を記録し、この夏は1880年以降の観測史上で最も暑かったとしています。猛暑に加え、命を奪うような規模の豪雨や台風被害が日本でも頻発しています。化石燃料に依存した社会を変え、すでに発生している被害に対応することが世界中で緊急の課題となっています。そんな気候危機の状況についていわゆる途上国の生の声を届けるため、今年7月20日にFoEアジア太平洋の10カ国以上からゲストを招き、シンポジウムを開催しました。その様子を報告します。

シンポジウムは法政大学国際文化学部との共催で実施し、会場とオンライン合わせて170名以上の参加者が集まりました。気候危機による損失と被害、脱炭素政策の実態、そして公正な移行をテーマに、各国からのゲストによる発表とパネルディスカッションが行われました。

気候危機の現状

第一部「気候危機のいま～アジア諸国での損失と被害の実態～」では、バングラデシュ、パプアニューギニア、インドネシアのFoEメンバーの発表がありました。バングラデシュは、排出される温室効果ガスの量がわずかであるにもかかわらず、気候変動の影響に対して最も脆弱な国の一つとされています。発表者のリズワナ・ハサン氏は、50年前に比べて大災害の頻度が10倍に増加していることや、インフラが整っていないために災害からの復旧に時間がかかり、修復しているうちに次の災害が起きるといった負の連鎖が続いていることなどを報告しました。現地では、海面上昇から土地を守るために砂を入れた袋で防波堤を作っていること、淡水を入手するために塩水の中を歩かなければならず、そのために皮膚が荒れてしまうことなど、人々の生活に悪影響が深く及んでいる様子を伝えてくれました。また、気候災害により多くの人々が移転を余儀なくされている状況も共有されました。

災害発生時に一日中土囊の上で浸水を防ごうとしている住民たちの様子を捉えた写真も紹介されました。ハサン氏は、災害時に住民が一日中対応に追われる現状を示しつつ、同じ

く海拔は低いものの、先進国であるオランダがどのように高潮や洪水に対応しているかを参加者に問いかけてみました。いかにバングラデシュのインフラが脆弱で、被害対策に使える資金が不足しているかが対比的に示され、印象に残りました。

パプアニューギニアからの報告では、様々な部族が暮らし、文化や生物多様性も豊かな国であるのに、自然災害によってそれらが失われつつあることが伝えられました。森林に恵まれ、かつては温室効果ガスの吸収源(排出する温室効果ガスよりも吸収される量が多い)であったのに、液化天然ガス(LNG)事業の開発や森林破壊により、今では排出量が吸収量を上回っているとのことでした。



バングラデシュの洪水の様子(写真提供: LEDARS)

誤った対策とは

第二部「脱炭素政策の裏側で～各地で進む、誤った気候変動対策～」では、「アジア太平洋における化石燃料の拡大」「プラスチック汚染と気候危機との関係」「日本のGX戦略の課題」そして「マレーシアの先住民族の慣習的土地に炭素市場がもたらす影響」について報告がありました。

2021年に、日本や韓国に続いて中国も海外での石炭火力事業への投資中止を発表しました。一方で、「クリーンな代替燃料」としてのLNG(液化天然ガス)の開発が南アジアでも広まっていることが指摘されました。また、プラスチック汚染の問題と気候危機がどのように繋がっているかについても報告がありました。

FoE Japanからは日本が推進するGX戦略の課題について

共有しました。温室効果ガスの歴代排出量が6位である日本は、脱炭素の先陣を切る必要があります。岸田元首相の下、日本政府はGX(グリーントランスフォーメーション)戦略と、そのアジア版であるアジアゼロエミッション共同体(AZEC)を立ち上げ、排出削減と経済成長の両立を目指すとしています。しかしGX戦略では、「グリーン」の定義が定められておらず、化石燃料との混焼で使用される水素やアンモニアを「脱炭素燃料」と位置づけ、化石燃料の延命を図っているのが現状です。また、国内では特に原子力推進の色が濃く、持続可能な戦略とは言えません。会場からも、日本が推進する「脱炭素策」についてアジアの各国はどう思うか?との質問があり、FoE Bangladeshのメンバーは、「アンモニア・水素の混焼やLNGがトランジション燃料であるというならば、そのトランジションは『いつ』起きるのか?これらの策は単なる化石燃料の延命措置に過ぎない」と回答しました。

システム・チェンジのために

では、私たちはどのようにして変革を達成していけば良いのでしょうか。

第三部「アジア諸国が考える公正な移行とは～私たちが目指す社会のあり方とは?～」では、各国で実践されている取り組みや、私たちが目指すべき方向について多様なパネリストから共有がありました。パレスチナの事例では、厳しい状況の中で暮らす女性たちが、太陽光パネルの設置や維持管理方法などを学び、酪農や家庭で電力を利用できるようになった結果、収入が増加し、イスラエルの企業から電気を購入しなければならない状況からのエネルギー自立も達成できたそうです。しかし、現在も続くイスラエル軍による大規模な攻撃により、その電力システムの多くが破壊されてしまったとのことです。即時停戦を強く求める世界の声が一層必要だと訴えました。

FoE インターナショナル議長のヘマンサ・ウィサナゲ氏は、単に再生可能エネルギーに移行するのではなく、その移行による生物多様性への影響や社会への影響を理解することが重要だと話しました。フィリピンのマイ・タケバン氏も、再生



パネルディスカッションの様子

可能エネルギー需要から鉱物資源需要も増加し、フィリピンの鉱物資源開発現場では人権侵害が発生していることを指摘しました。また、ウィサナゲ氏は、私たちは気候変動の枠組みで様々な意見を交わそうとしているが、問題はそれだけではなく、格差や家父長制、エネルギーシステムといった大きなシステムを変える必要があると指摘しました。自然との関わりを見直すことや、人間の将来だけでなく自然の将来を考えることが重要だと話しました。他の登壇者からも、エコロジーには限界があるため、消費パターンの変革について真剣に考える必要があるとの訴えがありました。

パレスチナ連帯

今回のシンポジウムは、FoEアジア太平洋の総会に合わせて行われました。FoEは世界的なネットワークですが、地域ごとに年に一度、地域の重要課題や活動方針、組織のあり方について議論する総会を行なっています。コロナ禍以降オンラインでの開催になっていましたが、今年は久しぶりの対面開催となり、改めてFoEのネットワークが持つ、現場の声を届ける力や、社会正義の視点での視座などの強みを肌で感じる事ができました。

また、パレスチナへの連帯を示す行動として、日本政府に対し即時停戦の働きかけを求める書簡を提出し、日本で活動する団体と協力して首相官邸前でアクションを実施しました。FoEパレスチナのラシャ・アブダイエ氏は「パレスチナの兄弟姉妹たちが殺されています。人々は食べ物や安心できる住まい、水を探し求めています。パレスチナの人々は抵抗に全てを捧げています。抑圧者にNOを、人々の力にYESを。抑圧する力にボイコットを」と強く呼びかけました。



首相官邸前でのパレスチナ連帯アクションの様子

シンポジウムの様子はFoE JapanのYoutubeでご覧いただけます。ぜひご覧ください。

(インターン: 竹内美玖、藤原瑞貴、牧野友香
スタッフ: 深草亜悠美)



ACTION REPORT

FoE Japanの
各活動の報告

全国で約8,000人が参加！ 気候アクションウィーク2024

気候変動

#ワタシのミライ



地球とわたしの豊かさについて考える対話(東京都世田谷区) ©Kishin Yokoya

FoE Japanも参加するキャンペーン「ワタシのミライ」は、9月14日～29日の2週間にわたり、気候変動対策の強化を求める市民の声を可視化する「気候アクションウィーク2024」を開催しました。期間中、全国各地で36のイベント・アクション等が実施され、約8,000人が参加しました。

今回の「気候アクションウィーク2024」は、米・ニューヨークで開催された国連未来サミットに合わせ、持続可能な地球環境や未来を求める世界中の人々と連帯して実施しました。日本国内においても、気候変動に大きな影響を与える「エネルギー基本計画」の改訂議論が進んでおり、今夏の記録的な猛暑や度重なる台風、豪雨の被害などによって、気候変動対策の重要性をより多くの人々が痛感したタイミングでもありました。

大阪ではプラカードを手にした人々や、オランウータンの着ぐるみが梅田の街をマーチ。JERAの石炭火力発電所がある愛知では、JERAの幹部を模したイラストや吹き出しのパネルを作ってスタンディングをするなど、各地で様々な工夫を凝らした企画が沿道の人たちの注目を集め、それぞれ地元の新聞社による報道にも繋がりました。

東京では、下北沢の再エネ100%で運営する施設を会場に

「地球のため わたしのため」と題したイベントを開催。「持続可能な暮らしは何かを我慢することではなく、豊かな喜びに溢れている」と実感できる空間をコンセプトに、マルシェや展示、パフォーマンス、トークショーなどを行い、約1,000人が来場しました。

気候変動という地球規模の大きな問題を前に途方に暮れてしまうこともあります。同じ想いを抱える人々が各地でアクションをし、繋がれたことに大きな希望を感じました。

(轟木典子)

ワタシのミライ

▶ ホームページ



▶ Instagram



みんなの笑顔！ 『福島ぽかぽかプロジェクト』

福島支援と脱原発

#福島ぽかぽかプロジェクト

福島ぽかぽかプロジェクトは、猪苗代を拠点に今年度も保養プログラムを開催しています。原発事故から13年以上が経ち、福島では事故前と変わらない生活を送っている人が多く、自然が豊かな野外での遊びを制限されている子どもはほとんどいません。何事もなかったかのように、事故前と同じ環境には戻れません。今でも多くの家族が、事故後に生まれた子どもたちを連れて保養に訪れています。何に気を付けて過ごすことが大切なのか、正しい知識を求めており、新たな保養のあり方が必要とされています。

コロナ禍に活動を休止した多くの保養団体が、継続を断念してしまっています。福島に暮らすことを選び、保養を必要としている人たちは、安全安全と復興を強調する国の力に、声をあげることもできません。こっそりと保養に来ている人や、職場の仲間にも言えない人もいて、ぽかぽかにいる時だけ本当の自分でいられるのかもしれない。

今年度は4月、5月、7月の開催に続き、8月に4回、9月を含めるとすでに8回のぽかぽかが開催されました(39家族



カヌー体験 検原湖(2024年8月)

175名)。8月の夏休み期間は、一般応募のいつものほかほかに加え、富岡町に新たに移住した人たち向けのほかほか、さらに参加者集めから企画運営を自分たちで行う「自主ほかほか」が2チームありました。コロナ禍では「自主ほかほか」を実施できませんでしたが、お友だちと力を合わせて行う企画は、大変だけれど人気があります。猪苗代湖の湖水浴、檜原湖のカヌーやサップ体験、公園での遊び、磐梯山登山や美術館訪問、花火、星空観察など、盛りだくさんの内容でした。

2013年、猪苗代でのほかほかが始まった時、4歳で参加した子が今や中学3年生になりました。来年ボランティアとして参加することを楽しみにしています。子どもたちの成長と健康を、お母さんやお父さんと一緒に喜ぶことがとても嬉しいです。

みなさまのご支援で成り立っている福島ほかほかプロジェクト。これからも子どもたちの成長と健康を、みなさまと一緒に見守っていききたいと思います。(矢野恵理子)

FITバイオマス発電事業者にアンケート実施

バイオマス

#STOP 森林減少

FoE Japanは、再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)の認定を受けた主なバイオマス発電事業者およびバイオマス燃料を混焼する石炭火力発電事業者を対象に、バイオマス燃料の持続可能性に関するアンケートを実施し、その結果を公表しました。

アンケートは、発電出力1万kW以上のバイオマス発電事業所およびバイオマス燃料を混焼する石炭火力発電所のうち、FIT認定を得ている計146の施設を対象に、2024年5月5日から2024年7月31日にかけて実施し、58の施設から回答を得ました(回答率約40%)。

その結果、以下が明らかになりました。

■木質ペレットやPKS(パームやし殻)といった輸入燃料を利用する発電所が多かった。

■木質ペレットについて、「伐採した森林」までのトレーサビリティの確認ができていない事業者は一部にとどまった。また、燃料の持続可能性を確認する上で重要な情報である生産地情報について、ほとんどが情報公開を行っていない。

■バイオマス燃料のライフサイクルGHGに関して、7割が「算定している」と回答したが、算定結果をウェブサイト上で公開しているのは一部にとどまった。また、森林の減少・劣化に伴う炭素排出については、ほとんどがカウントしていなかった。

FoE Japanはアンケート結果を踏まえ、企業との対話を行い、政府に対してFITガイドラインの強化を求めていく予定です。(満田夏花)

▶詳しくはこちらの二次元バーコードからご覧ください。



アジアの市民団体が要請 日本は『誤った気候変動対策』を広めるAZECを止めて

開発と人権

公的金融機関



WALHIらによるジャカルタでの日本大使館前アクション(2024年8月20日)

8月20～21日、第2回アジア・ゼロエミッション共同体(AZEC)閣僚会合がインドネシアで開催されました。同会合の初日、インドネシア環境フォーラム(WALHI/FoEインドネシア)を含む現地の市民団体は、ジャカルタの日本大使館前で抗議アクションを行い、「日本がGX(グリーントランスフォーメーション)戦略の下で主導するAZEC構想は、脱炭素を掲げるグリーンウォッシングの取り組みにすぎない」と批判しました。また、日本政府に対する要請書(41団体が署名)を大使館に手渡しました。

同要請書では、AZECの下で進められる事業が地域住民の生活に影響を与える可能性があるにもかかわらず、住民や市民団体の意味ある参加がないまま進められているとし、AZECが迅速、公正かつ公平なエネルギー移行を妨げていると指摘しています。

またAZECが、①アンモニア・水素・バイオマス混焼や炭素回収・利用・貯蔵(CCS/CCUS)等の技術利用で石炭・ガスを含む化石燃料エネルギーの利用を長引かせる、②環境及び地域社会の安全を脅かす誤った対策(地熱や廃棄物発電を含む)を活用している、③新首都の建設や石炭及びニッケル等の採掘で、土地や海洋空間の収奪を助長し、さらなる森林破壊につながる、④インドネシアを債務の罠に陥らせる一ことから、AZEC構想を破棄するよう要請しています。

今回の会合にあたっては、アジア全域で政策提言に取り組む「債務と開発に関するアジアの民衆運動(APMDD)」からも、東南アジアの代表団に対し、日本の官民と新しい事業の覚書を締結しないよう求める公開書簡が提出されました。日本政府は、脱炭素化ではなく『誤った気候変動対策』をアジアに蔓延させることになるAZECの推進を止めることが求められています。(波多江秀枝)

10年ぶりに
コーナー復活!

FoE Japanを応援してくださっている方たちを紹介する連載を、10年ぶりに再開します!
インタビューを通じて、その方のストーリーや想いを皆さんにお届けします。

I am a friend of the earth vol.1

上條陽子さん ボランティア



2021年春からFoE Japanでボランティア活動を始めた上條陽子さん。きっかけは、長年勤務していた大学で、FoEのスタッフが行っていた講義との出会いだったと振り返ります。「こういう活動って素晴らしいと思ったし、皆さんもとても良い人たちだった。定年退職後、何か少しでもお手伝いできたらと思ってメールしました。」

上條さんは事務的な仕事だけでなく、アクションやイベントなど幅広くFoEの活動を支えています。中でも思い出に残っているのは? 「企業の前での抗議アクションや院内セミナーへの参加は初めての経験だったので、興味深かったです。コンサートでのブース出展や気候マーチに皆で参加したのも楽しかったですね。」

ダンスが得意な上條さん。抗議活動では衣装をまとったパフォーマンスで大活躍!新スタッフの歓迎会ではポリウッドダンスを披露してくれたことも。FoEにエネルギーと笑顔をもたらす存在です。「イベントやアクションに参加することで、問題をより深く知ることができるし、世界と言ったら大きいけれど、世の中が良くなっていくちょっとした手助けに自分になっていたら嬉しいです。難しいことは得意ではないけど、自分にできることならなんでもやっていきたいです。」



information 祝 LINE 公式アカウント1周年!

FoE Japan LINE 公式アカウントは、昨年9月の運用開始から1周年を迎えました。最新の情報やニュースレター発送などのボランティア募集を定期的に配信しています。11月9日(土)には、1周年を記念した友だち限定のオフラインイベントを企画中です。皆さんの参加をお待ちしています!

▶友だち追加はこちらの二次元バーコードから

友だち登録は
こちらから!



FoE Japan (フレンズ・オブ・ジ・アース・ジャパン)とは

世界73カ国にネットワークを持ち、国連にNGOとして正式に承認されているFriends of the Earthのメンバーです。地球上のすべての生命(人、民族、生物、自然)が互いに共生し、尊厳をもって生きることができる、平和で持続可能な社会を目指し、1980年より日本での活動を続けています。

会員募集

FoE Japanの活動は皆さまのご支援によって支えられています。持続可能な社会をめざし、国内外の環境問題に取り組む私たちを応援してください。

会員特典

- 入会時にオリジナルエコグッズと会員証をお届けします。
- ニュースレター(季刊)をお届けします。
- 各種イベント等、環境学習講師派遣料、出版物等が割引になります。
- 会員限定のイベントやプロジェクトに参加いただけます。

会員

種類	年会費
個人	5,000円 10,000円 30,000円 50,000円
学生	3,000円
ファミリー	3,000円
団体(一口)	10,000円
法人(一口)	50,000円

お申込み方法



パンフレットから
事務局にご請求ください



ウェブサイトから
www.foejapan.org

お支払い方法 [下記のいずれかの方法をご選択できます]

- 郵便振替 郵便振替口座 00130-2-68026 FoE Japan
- 銀行振込 城南信用金庫 高円寺支店(普)358434 エフ・オー・イー・ジャパン
*銀行振込の場合は、お手数ですが送金後事務局までご連絡ください。
- 銀行自動引落し 所定の自動引落利用申込書をご利用ください。
- クレジットカード ウェブ決済をご利用いただけます。

寄付の募集

金額の多少に関わらず随時寄付金を募集しています。FoE Japan へのご寄付は税制優遇措置(寄附金控除)の対象になります。お支払い方法は会費と同様です。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

編集後記

災害級の猛暑が続きましたが、皆さんはいかがお過ごしでしたでしょうか?気候危機の影響をひしひしと感じる一方で、対策が進まないことへの不安や無力感を抱いています。同じ思いを持つ方々と繋がりたいという気持ちから、活動を支える方々を紹介するコーナーを再開しました。皆さんの声を聞けるのを楽しみにしています。(M)

green earth Vol.92 2024年10月31日発行

発行人 ランダル・ヘルテン
編集 舞木瑞季 篠原ゆり子 佐々木勝教
デザイン 畠山功子
印刷 株式会社 文星閣



認定NPO法人 FoE Japan
(フレンズ・オブ・ジ・アース・ジャパン)

〒173-0037 東京都板橋区小茂根1-21-9
TEL 03-6909-5983 FAX 03-6909-5986
<https://www.FoEJapan.org>
E-MAIL info@foejapan.org

